

と畜業における死傷災害発生事例（2017年）

年	月	発生時	死傷災害発生事例	年齢	起因物(小)	事故の型	労働者規模
2017	1	13~14	小動物内蔵処理室（豚頭肉処理室）で豚の頭の脱骨作業中、左手で支えていた豚頭が滑り、そのはずみで右手に持っていたナイフで左腕を刺した。	29	364	8	100~299
2017	4	10~11	牛と畜場内の牛背割りを行う所で、ホルスタイン種の牛枝肉を背割終了後に股カギ棒が牛枝から外れ、背割機ハンドルを持っていた左手甲の人差し指付け根から手首側へ2cm位の所に当たり、5mm位の裂傷と人差し指中手骨骨折を負った。	67	364	6	30~49
2017	6	13~14	空トロリーを引き込み作業中に、レールのコーナー部で足を滑らせ、バランスを崩して転倒した。転倒した際、床に左手を着いた時、左手首を負傷（橈骨骨折）した。	34	416	2	100~299
2017	6	17~18	本館棟（工場）カット処理区間入場口において、作業終了後に長靴等を着脱する入場口のフローリング部分で、足を滑らせ転倒し、背中を強打した。尚、以前より私傷病（頸部捻挫、背部挫傷（下部））にて通院加療、経過良好であったところを本件にて疼痛増大した。	28	416	2	100~299
2017	7	15~16	豚のバックサポート工程（頭落し作業）において大貫豚（雄）をバックサポート台に乗せて右手のナイフで豚の頭を切り落とすため、ナイフを入れた時、頭を押えていた左手の位置が悪かったので、誤って刃先で左手首下部を刺してしまい切創、負傷した。	32	364	8	100~299

2017	7	16～ 17	小動物処理室（けい留所）で豚（大貫）を後方から追い込み中に、豚が反転したため避けよとして、柵を飛び越えた際に、柵のカギ（フック式）の突起部分に接触し、左膝下内側を6針切創および骨にヒビが入った。	21	418	3	100 ～ 299
2017	7	13～ 14	当社において、吊るされている豚の枝肉を洗い右に移動させようと、両手で枝肉を押していた時に、腰を捻り負傷した。	50	529	19	30 ～ 49
2017	7	11～ 12	牛の枝肉洗浄作業のため昇降台に乗り作業を行っていたとき、台を下げようと操作ペダルを踏み込んだが台が下がらず、チェーンブロックの鎖だけが動いた。少し遅れて鎖が緩んだ分だけ一気に下がり、台と共に落ち、右足踵を骨折した。	74	214	1	10 ～ 29
2017	10	8～9	事業所内にて牛のと畜解体作業中、と畜した牛を後ろ足で吊し、牛の頭部を同僚がナイフで切り離す作業をするため、牛の前足を両手で押さえていたところ、牛の前足が痙攣して上に動いたため、右手の甲が同僚が持っていたナイフの刃先に当たり負傷する。	70	719	8	10 ～ 29
2017	10	10～ 11	豚の解体作業で、と体をハンガーにかけ、吊り上げてレーンに送る際に、レーンまで届かなかったため、押して間に合わせようと走って行った所、ステンレス製の側溝の蓋の表面に溜まった豚の血液と、底の擦れた長靴に付着した油分で滑り転倒し、肩・腰・膝を強く打、捻ってしまった。2～3日で痛みが治まるかと様子を見ていたが、治まらなかった。1週間後も痛みが治まらず、MRI検査をすすめられ、検査の結果、腰椎捻挫と左肩挫傷と診断された。	59	417	2	10 ～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_06.html